

令和 8 年度病虫害発生予察注意報第 7 号

令和 8 年 9 月 2 日
愛 知 県

作物名：ダイズ

病虫害名：吸実性カメムシ類（主にミナミアオカメムシ）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 県内 5 か所に設置した予察灯において、ミナミアオカメムシの 5 月第 1 半旬から 8 月第 5 半旬（長久手市は第 6 半旬）までの合計誘殺数は、多い～やや多い（図）。
 - ・大口町で 64 頭（過去 9 年平均 8 頭、前年 7 頭）と、過去 9 年間と比較して最も多い。
 - ・長久手市（農総試内）で 50 頭（平年 15 頭、前年 34 頭）と、過去 10 年間と比較して最も多い。
 - ・弥富市で 296 頭（過去 5 年平均 155 頭、前年 238 頭）と、過去 5 年間と比較して最も多い。
 - ・西尾市で 151 頭（平年 46 頭、前年 132 頭）と、過去 10 年間と比較して最も多い。
 - ・豊川市で 119 頭（平年 90 頭、前年 227 頭）と、過去 10 年間と比較して3 番目に多い。
- (2) 8 月下旬に県内 9 地点 18 ほ場（ダイズ）で行った巡回調査において、吸実性カメムシ類の寄生虫数は 100 株あたり 0.22 頭（平年 0.33 頭、前年 0 頭）と、過去 10 年と比較して3 番目に多かった。
- (3) 名古屋地方気象台 8 月 27 日発表の 1 か月予報によると、向こう 1 か月の気温は高いと予想されており、発生に好適な条件が続く可能性がある。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 子実肥大初期（開花 30～40 日後）に防除を実施する。その後も発生が多い場合は、7～10 日後に再度防除を実施する。

水稻に寄生していたカメムシが、水稻収穫後に隣接したダイズほ場へ飛来することが予想されるので、ほ場を丁寧に見回り、吸実性カメムシ類の寄生状況を確認する。近年は 10 月以降も気温が高い状態が続くため、カメムシの発生に注意する。
- (2) 同系統の薬剤の連用は避け、異なる系統でのローテーション防除を徹底する。

5 吸実性カメムシ類について

ダイズ子実を吸汁加害する主な種は、ミナミアオカメムシ（写真 1、2）、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ等である。

被害はダイズの生育ステージにより異なる。莢伸長初期から子実肥大初期の被害としては、莢の発育不全による落下や、子実が肥大しない板莢の発生等がある。子実肥大中期以降の被害は、奇形粒、変色粒であり、品質の低下につながる。

また、吸実性カメムシ類による加害が著しい場合、子実への養分の転流が進まないため、莖葉が緑のまま落葉しない「青立ち」を引き起こすことがある。

6 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室
電話 0561-41-9513

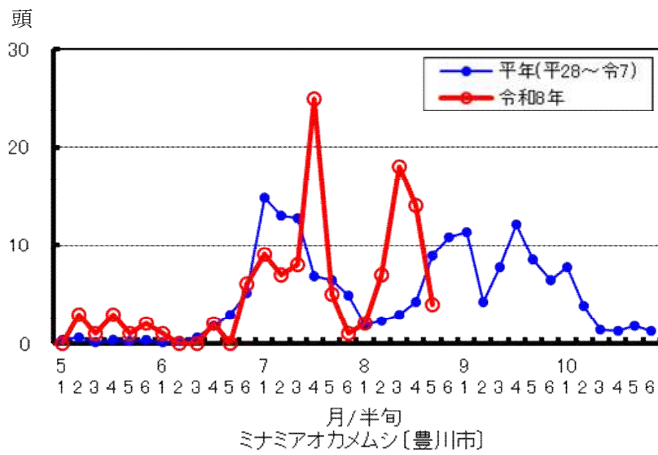
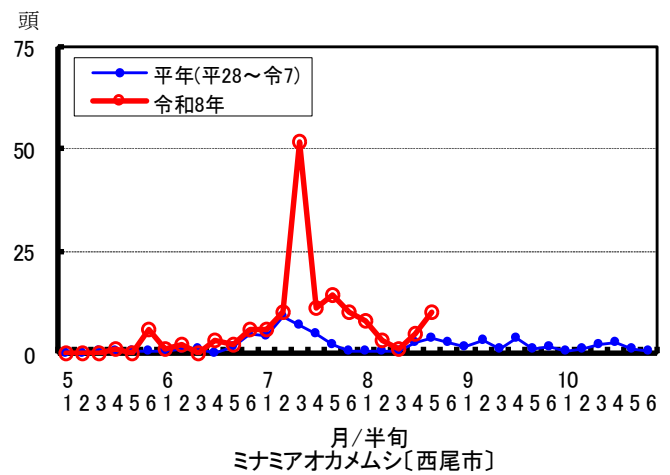
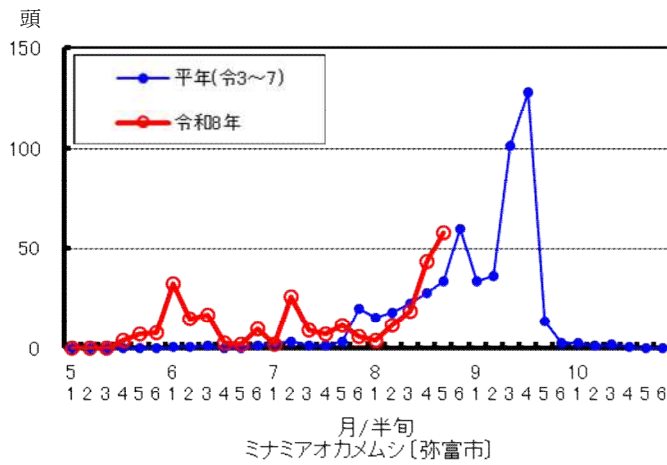
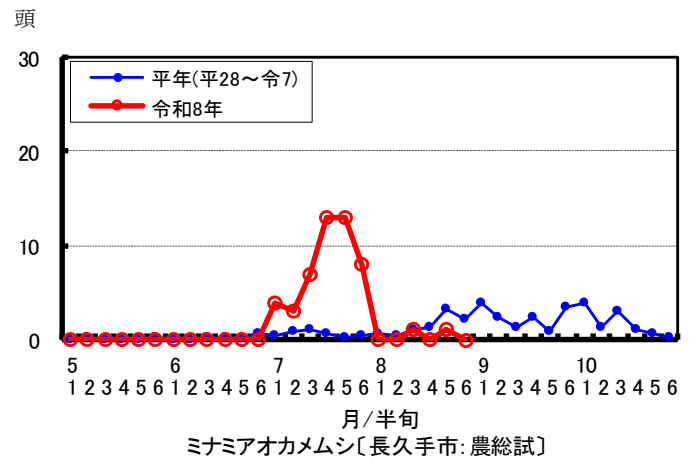
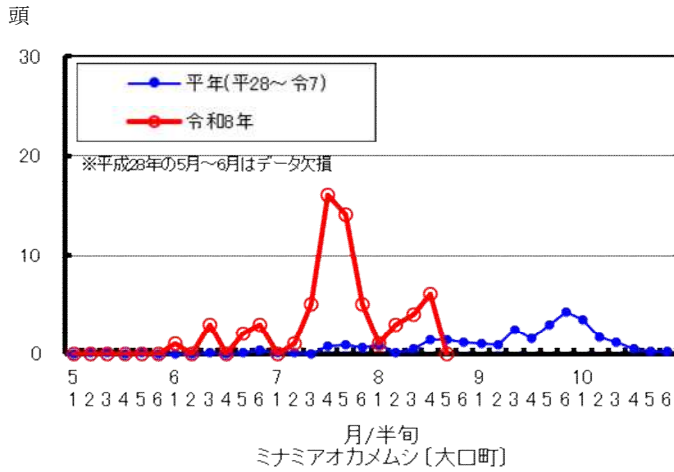


図 予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺状況（単位：頭）



写真1 ミナミアオカメムシ成虫



写真2 ミナミアオカメムシ幼虫